

麦の穂

第63号

2018年1月
特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX
022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1 郵便振替口座 02200-8-46178
E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp http://www.muginokai-koppe.com

目次	みやぎアピール大行動を終えて	飯嶋 茂	・・・1p
	絆	阿部 央希	・・・3p
	私の知事選	堀野 公子	・・・4p
	コッペの栗駒旅行	氏家 大介	・・・5p
	自己紹介	鈴木 洗平	・・・6p
	高校生の夏ボラ体験		・・・7p
	鶴特バザー	氏家 大介	・・・9p
	マンガ「おじいさんの恩返し」	日下 由美	・・・10p

みやぎアピール大行動を終えて

飯嶋 茂

みやぎアピール大行動は、今年で11回目になりました。

1割の応益負担を打ち出した障害者自立支援法に反対する声が全国的に高まる中、宮城においても、障害種別の垣根を越え、県内40以上の団体が集まり、年1回の集会とアピール行進を行ってきました。コッペもその活動の一端を担っています。今後も“私たち抜きに私たちのことを決めないで”を合言葉に、県・仙台市にむけて私たちの要望を伝えていきたいと思えます。

以下に今年のアピール文を載せます。

私たちはこの街で生きてはいけないの？

～相模原障害者殺傷事件と私たちの生きるメッセージ～

みやぎアピール大行動2017 アピール

「障害者なんていなくなればいい」「障害者は不幸を作り出すことしかできない」-。こうした言葉・思想のもとに、昨年7月26日、相模原市の津久井やまゆり園で障害者殺傷事件は起きた。19人の尊い命が奪われ

たほか、27人が傷つけられ、障害者一人ひとりの暮らしの場が奪われた。こうした非道な行為や思想に強い怒りと恐怖を感じる。社会には未だ優生思想が根強く存在しており、断じて許すことはできない。私たちは、この事件を風化させることなく、これからも追求しなければならない。

事件の再発防止のために起きた精神保健福祉法改正の議論は、精神科への措置入院経験がある人に対して、支援という名のもとに警察が加わったモニタリングを続けるというものであった。これは支援ではなく、警察による監視であり、大きな人権侵害である。政治や社会が、障害者差別を助長すると言わざるを得ない。

加えて、今年9月、宇都宮市の知的障害者施設で起きた、職員による入居者への暴行事件も記憶に新しい。障害者権利条約が批准され、障害者差別解消法が施行された今もなお、障害者への差別、虐待は後を絶たない。

相模原障害者殺傷事件から1年3ヶ月が経過し、今、私たちに求められていることは、一人ひとりの尊い命が大事にされる、真の共生社会の実現であろう。障害者権利条約は、「障害者が誰と、どこで、どのように暮らすのかを選択する権利があり、その選択に必要な支援を受けられる」としている。

私たちは、一人ひとりが望む暮らしができるよう、より多くの人々と思いを共有し、国や県・市町村に対して、障害当事者の立場に立った福祉施策の推進を、より一層強く求めていく。

どんなに困難があろうとも、真の共生社会の実現をめざして、私たちは生きていく。この街で、この地域で。障害者である前に、人間として。そして、すべての人に生きる権利があり、幸福を求める権利があり、だれもそれを犯すことはできない。これが、私たちの生きるメッセージである。

私たちは、これまで、障害者の生活をより困難なものにした障害者自立支援法に反対する運動で連帯してきた。これからも、この場に集まった仲間、集えずとも同じ思いを強く持っている仲間たちとともに、障害の有無によらず共に暮らせるみやぎをつくっていこう。そして、本日、みやぎアピール大行動に結集し、自信と誇りと決意を胸に、11回目の街へ出よう。

2017年10月9日

みやぎアピール大行動2017参加者一同

糸半

高部 央希

本当の糸半は自分が大事な事
いっは^いあります。一番生まれて
よかったと親に感謝しています。
支えてくれた親にありがとうございました
と言う事言葉あります。糸半があれは
ずっと大事に生まれてくれた親に
ありがとうこれからもよろしくお原頁いします。
命かけてこの親から生まれて幸せです。

私の知事選

堀野公子

今回の宮城県知事選に立候補したのは私の連れ合いです。村井さんの無投票当選はあり得ないとずっと言っていました、まさか本人が立候補するなんて！ 一番、驚いたのは私ではないかと思えます。でも周りの方々からの反響に、私はまたまたびっくりしました。心から投票したいと思う人がいる選挙なんて初めて、立候補してくれてありがとう、その勇氣に感激した、そんな声をたくさんいただきました。最初は驚き戸惑っていた私の気持ちも、皆さんの声に背中を押されて応援に変わっていきました。

私が彼と出会ったのは二十歳のころです。大学でエコロジー研究会というサークルを作って大学の敷地で無農薬野菜を作り、女川原発の建設反対の運動も熱心に取り組んでいました。あいコープみやぎで仕事をするようになってからも、作る人と食べる人の顔の見える関係を繋ぐこと、環境を守ること、そのためには原発に反対する。私が出会った頃から考えは一貫しているのです。

今回の選挙を通じて皆さんにお話ししてきたことも、根底にあるものは同じだと思います。中でも原発反対、女川原発の再稼働を止める。これは政党に属する政治家ではない彼だからはっきり言えたことだと思います。

選挙戦には負けましたが今回の選挙で私が一番良かったなと思っていることは、彼がずっと思い続けている反原発を自分の言葉で直接、皆さんに訴えられたことや、新聞やテレビでも女川原発の再稼働を争点に取り上げてくれたこと、そして多くの皆さんが彼を支持して下さってそれぞれの場所でいろいろなやり方で応援して下さったことです。

子ども達に迷惑をかけないように、これからも原発がなくなるまで反対運動に取り組んでいくことと思います。皆さん、これからもよろしく願います。ありがとうございました。

(堀野さんとお連れ合いさんとは長いお付き合いになります。現在は麦の会の監事もお願いしています。知事選は残念でしたが、お疲れさまでした。飯嶋)

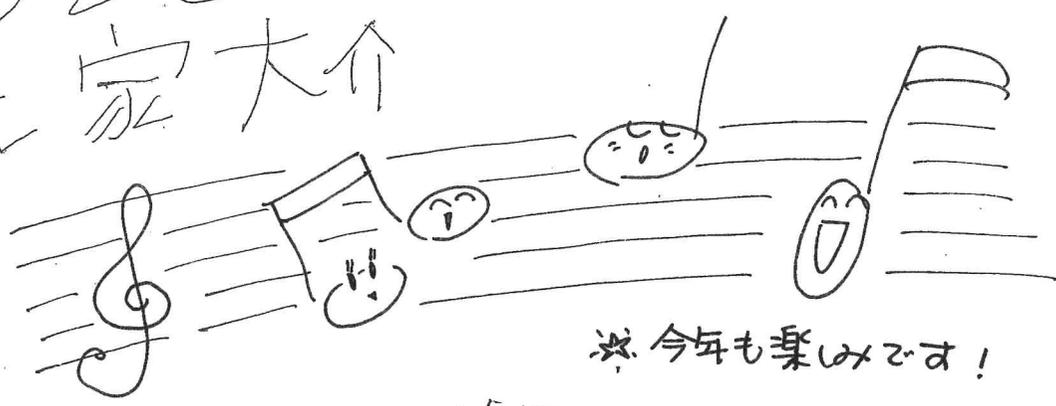
9月16日-17日コッパ葉馬向へ行ってきました。

フレコからみきちちゃんとみきちちゃんのお母さんと
レコレレ=ハーリーホーターとらららをしてましたハハハハ
しました。とこもたのしかったでた。カラオケでは
嵐のデビュー曲 A.R.A.E.S. H.I を
みきちちゃんとレコレレにうたいました。

のりのりにうたいました。卓球をしました。

温泉もはりました。クワコはんとおみそしるかし
いのなつかけもたてました。テニートもたてました。
ふるはかおたてるむくとレコレレ=ツットで
者ました。おみかしてもかいました。
アイスもたてました。

とこもたのしかったでた
氏家大介



※今年も楽しんでます!

今年の5月に入社しましたに^{すずき}鈴木^{こうへい}光平
です。10月で25歳になりました。

結婚して3年が経ちます。1歳1ヶ月に
なる娘がいます。毎日成長している姿が
見ているとても楽しいです。

5月に入社して、あ、という間に7ヶ月が
経ち、最初は戸惑いもありましたが、今は
とても楽しく仕事をしています。

早くみんなから信頼してもらえるように
がんばります。よろしくお願いします。

※ 阿部央希くんに鈴木さんの
似顔絵を描いてもらいました！
髪型はちよと違うけど
「イケメン」のイメージは良く
表現していると思います♡



阿部 央希

認定NPO法人杜の伝言板ゆるるさんが、毎年企画している「NPOで高校生の夏ボラ体験」。以下はコッペに来てくれた高校生の皆さんの感想です。

◆接することの大切さ

宮城県角田高等学校 3 学年

都築 理紗

私は、8月2日から4日まで特例認定NPO法人麦の会でボランティア体験をしました。このボランティア先を選んだ理由は、高齢者や子どもとの交流はあっても、障がいを持った人との交流はなかなか無いと感じ、交流を持ってみたいと思ったからです。

1日目はクッキー作りと袋詰め、2日目と3日目はパン作りと袋詰めをしました。この3日間で色々学び成長することが出来ました。その中でも一番学んだことは、障がいを持つ人達との関わり方です。お店には色々な障がいを持った人たちがいました。最初は、どう接して良いのかわからず、あまり話す事が出来ませんでした。でも、お店の人達を見ていると障がいを持たない人と変わらない接し方をされていて、驚きました。そこで、一人のひととして平等に接しなければならぬと気付きました。

そこからたくさん話をし、交流を深めることが出来ました。

将来はリハビリの職に進みたいので、今回の体験を活かしていきたいです。

◆ボランティアを体験して

宮城県利府高等学校 3 学年

千葉 いつき

私は7月25日から3日間コッペさんでボランティアをしてきました。1日目はパン作りとクッキー作り、2日目はクッキー作り、3日目はパン作りとクッキー作りのお手伝いをしました。パン作りは生地を丸めたり成形したものを鉄板に並べる作業、クッキー作りはクッキーを鉄板に並べたり焼き上がったクッキーを袋詰めする作業をしました。

作業の中には簡単に見えてコツがいる作業があったりしっかり数字を確認して行う作業がありました。私は慣れない作業で少し難しく感じた所もあったのですが、みなさんがとても作業に慣れていてスムーズに作業をされていてすごいなと思いました。障がいがあるということ出来ないことがあるイメージだったのですが、出来ないことばかりではないことを改めて感じました。

また、作業の内容ややり方、次に何をしたらいいのかななどを優しく教えてくれてとても嬉しかったです。少ししかお話できませんでしたがとても楽しかったです。

す。

今まで障がいのある人と接する機会があまりなかったので、どのように接すればいいのか分からない部分もあったのですが、今回の体験で障がいがあるからと変に気を使わず、普段と変わりなく接すればいいということがわかりました。

今後、働いたり生活をしていく中で障がいのある人に出会うことがあると思います。その時に今回の体験を活かしていければいいなと思いました。また機会があればボランティアをやってみたいなと思いました。

◆居心地がいい場所

宮城県利府高等学校 3 学年

藤原 凧沙

私は 8 月 2 日から 3 日間、特例認定 NPO 法人麦の会で、障がい者の方々とパンやクッキーを作るボランティアの体験をしました。

私は臨床心理士を目指しているため、障がい者の方やその家族の方からカウンセリングを依頼された時に、どのように接すればいいのかななどをボランティアを通して考えてみたく参加しました。

1 日目はクッキーの並べ方や袋詰めをしました。どのようなことをするのか見当もつかず不安と緊張でいっぱいでした。しかし、みなさんに優しく教えていただき、なんとか上手くできました。2 日目、3 日目からはパンを作りました。りんごパンやあんぱん、メロンパンを作りましたが、中でもクマのチョコパンはとても難しく、エイリアンのようなパンができた時は、パン作りの大変さを身に染みて感じました。しかし、障がい者の方々はクマだけでなくアンパンマンやかわいい似顔絵などを器用に作っていてすごいなと思いました。

障がい者の方々と触れ合うのは初めてで、ボランティアの前日には何を話そうかなどと考えましたが、行ってみるとみなさんの方から話しかけてくれて、考えることなんて何もなかったなと思いました。みなさん、明るく楽しくて、仲が良く、3 日間でしたがとても居心地がいい場所だなと感じました。

この体験を通して、障がい者と健常者との違いを探しましたが、大した違いはないと感じました。将来もし障がい者の方やその家族の人からカウンセリングの依頼がきたとしても、この体験を思い出すことによってクライアントの心に少しでも寄り添えることができると思います。麦の会のみなさん、3 日間ありがとうございました。

